

説教要旨 「イエス様の家族」

ルカによる福音書8章19～25節

イエス様の家族が、イエス様に会いに来ました。しかし多くの群衆たちが周りを取り囲んでいたため近づくことができなかつたため、人づてに「会いたい」と伝えます。それを聞いたイエス様は、「わたしの母、わたしの兄弟とは、神の言葉を聞いて行ふ人たちのことである」と言われました。

また別の日、イエス様は弟子たちと一緒に舟に乗り込み、ガリラヤ湖の向こう岸へと船出しました。弟子たちの中にはペトロを初めガリラヤ湖の漁師たちがおりましたから、舟を操ることは彼らに任せて、イエス様はじきに眠ってしまいました。すると、「突風が湖に吹き降ろして来て、彼らは水をかぶり、危なくな」ります。要するに嵐になり、ベテランの漁師たちの力をもってしても舟が沈みそうになってしまったのです。嵐の中で必死に舟を漕ぎ、水をかい出している弟子たちの傍らで、イエス様は眠り続けておられました。弟子たちはついにたまらなくなり、イエス様を起こして、「先生、先生、おぼれそうです」と言ったのです。イエス様は起き上がって、風と荒波とをお叱りになりました。すると風と波は静まって凪になったのです。そして弟子たちに、「あなたがたの信仰はどこにあるのか」と問われたのです。

イエス様に会いたいと願ったイエス様の母や兄弟たちと、嵐におびえイエス様を起こした弟子たちは、「イエス様が自分と、自分たちと共にいてくださっていない」と感じていたことにおいて共通しています。しかし、私たちが苦難の中で「主が共にいてくださっていない」と感じるような時にも、イエス様は共にいてくださいます。どのような時にも、主が共にいてくださる。このことに信頼して歩むこと。それが「神の言葉を聞いて行ふ」者の姿ではないでしょうか。私たちはそのようにして、イエス様の本当の家族とされていくのです。私たちが自分の意志で、自分の努力で、イエス様の家族になるのではありません。イエス様ご自身が私たちのことを、「この人たちは神の言葉を聞いて行ふ人たちであり、私の兄弟、家族である」と宣言して下さるのです。